# 時事新報

明治十八年十月十五日(木曜日)　みづのと、う
舊乙酉九月八日
日出午前六時零七分　日入午後五時二十四分
月出午後零時九分　月入午後十時四十分
滿潮午前九時四十三分　午後十時零三分
(西暦一千八百八十五年)

時事新報定價(日曜日バカリ休刊)
一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便税一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢〇左ニ掲グル各地ニ於テハ郵送無料ニテ配達致候
東京　横濱　横須賀　從神奈川至小田原驛　函根七湯　京都　大津　神戸　尾ノ道　赤間關　山口　笠岡　岡山　廣島　大坂　和歌山　徳島　高知　下ノ關　名古屋　岐阜　岡崎　豊橋　四日市　津　松坂　山田　仙臺　函館　二本松　石ノ卷　盛岡　青森　弘前　宇都宮　高崎　八王子　千住　越ヶ谷　粕壁　杉戸　幸手　久喜　關宿　草加
其他同樣郵送便宜ノ個所ハ同レク郵送料不申受候



時事新報廣告料(前金)一行ニ付

| 一行廿四字詰 | 一日限 | 二日以上六日迄 | 七日以上十五日迄 | 十六日以上卅日迄 | 卅一日以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| 自一行至十行 | 十錢 | 八錢 | 七錢二厘 | 六錢八厘 | 六錢四厘 |
| 自十一行至三十行 | 九錢 | 七錢 | 六錢三厘 | 五錢九厘五 | 五錢六厘 |
| 自三十一行至五十行 | 八錢 | 六錢五厘 | 五錢八厘五 | 五錢五厘 | 五錢二厘 |
| 五十一行以上 | 七錢 | 六錢 | 五錢四厘 | 五錢一厘 | 四錢八厘 |


## 時事新報

### 明治廿三年の亞細亞博覽會

行くが如くなれば我政府は亞細亞博覽會と稱するものを來る明治廿三年を以て東京に開く可しとあり抑も博覽會なるものは四方八方より新古珍奇の品物を集めて之を一棟の下に網羅し順序を立て部類を分ち衆人一遍遊覽の便に供するものなれば幾多參觀の人々は萬方の物産工藝を一目に領して彼此對視の其間に新智識を增すこと少なからず又其出品中の優等なるものは博覽會審査官の鑑定を以て特に金銀の賞牌等を贈り以て其功勞を彰はすが故に工藝者の名利心を滿足して其發明工夫を未來に奬勵するとも亦少しとせざるなり今を去ると四五十年前文明の交通法未だ歐洲に遍ねからざる時に於ては泰西諸國來往の便に乏しく工藝製造等に從事する者も各其山の石を以て自から其技術を磨き敢て[illegible]工藝上の[illegible]を得るの機會あらざりしが故に工藝者の[illegible]廣く[illegible]英國人は率先の任に當り千八百五十一年の萬國大博覽會には倫敦のハイド ハークに水晶宮(今の水晶宮即ちクリスタル パレスは右博覽會了りて後ハイド ハークより引き移したるものなり)を建築し海上より陸路より世界萬國の出品を蒐めて之を其中に陳列し世界萬國の參觀人を花の都倫敦府に蝟集して未曾有の盛觀を極めたり爾來歐米諸國の工藝技術は此頃より數層の進歩を現はし歐洲一般の工藝も亦其面目を改めたりと云ふ近年に至ては博覽會の利益ますます顯はれ歐洲諸國年として其開會あらざるはなく手を換へ品を換へ萬國の新出品を蒐集して萬衆の觀覽に供するが故に漁業博覽會と云ひ衛生博覽會と云ひ又新發明品博覽會と云ひ其道に熱心注目するもの孰れも千里を遠しとせずして來り以て自から其見聞を利せんとするもの丶如し左れば明治廿三年の亞細亞博覽會に於ても歐米諸國の工藝家は先を爭ふて來觀するを恰かも彼の歐洲中の諸博覽會の如くなる可きや否やと云ふに我輩の豫想を以てすれば其間少しく趣を異にするものある可しと思はるゝなり今其次第如何と云ふに明治廿三年の博覽會は亞細亞洲中の出品のみを蒐集するの趣向なるよしなれば歐米諸國の工藝家に對しては利害の關係自から薄く特に亞細亞の出品と云へば機械學の原則を利用したる器具甚だ少なく蒸氣電氣の働きを假りて精工微妙を極めたる品物も亦少なく唯々風雅洒落にして天然自然に成りたるが如く學術外に甚だ不規則の味あるものか、或は奇古怪異にして山に千年川に千年の古色を帶び唯一ありて二なきものか、之を要するに彼の古器物とて何寺の寶物、何家の珍藏に係るもの其多分を占るとならん保養遊覽の眼を以て見れば出品の奇いよいよ奇にして見物の興いよいよ多く、十分其好奇心を滿足するならんと雖ども歐米諸國の工藝家は文明の發明工夫に熱心し物の輕便にして用に廣大なるものを求め機械學の原則中より卓拔出群れる專賣免許品を搜索し出さんとするに汲々たるものなれば釋迦の鐵鉢、太公望の釣竿等は奇にして效なく雅にして用なきものと見るも以て其心を動かすに足らず故に數理學問上の利益を目的とするときは萬里亞細亞の博覽會を尋ぬるも得る所甚だ少なきを遙察して敢て其來覽の先を爭ふものなかる可きあり左れば歐米諸國よりわざわざ亞細亞の博覽會に臨むものは兼ねて亞細亞の遊歷を企て東瀛の風物に飽かんとするもの、或は少しく商工に事に志す者なれば漫遊半分に亞細亞の物品を一覽して其古雅の部分を取て新物製造の參考に利用せるの目的にして之を喩へば數千年の空藏に埋もれたる雜物の中より偶然に掘出しものを求めんとするが如き旅客の種類なるべければ會場の出品に就て日新の利益を得んとするよりも寧ろ保養遊覽のために來る者にこそあるべしと推察せざるを得ず抑も此來遊の目的が初めより保養遊覽に在りとすれば其人數も亦自から少なかるべしと思ふ者もあらんなれど我輩の所見を以てすれば其邊には心配なき事と信ずるあり東洋流の考にては遠き歐米の國々より東洋の片隅の孤島まで博覽會見物などゝは思ひも寄らざるの次第なれども金滿便利遊興の快を追ひ然かも旅行に慣れたる外國人は兼ねて東洋の風物を尋ね林泉堂宇の勝を探り人情風俗の文野を察して友朋宴間の談柄に供せるの意ある折柄、日本に亞細亞博覽會ありと同時に國會の開設ありて亞細亞人種中に立憲政體の先鞭を着くるなど毎報其好奇心を動かさゞるものなきに於ては國會に就き博覽會に就き日本人狂喜の状亦是れ一層の奇觀なれとて遊興勃々此を機會と東洋行を企て來遊の上は事々物々見聞に奔走して滯留歸るを忘るゝとならん此時に當て我々は如何に來遊の外國人を待遇して日本文明の實際を示し外國人をして日本の獨り東洋に卓出し鷄群の一鶴風骨自から凡ならざる所あるを知らしむると得べきか是れ我輩の豫め講ず可き所なり

(以下次號)

## 官報

○明治十八年十月十二日　歩兵大佐從五位勳四等　磯井運博
敍勳三等賜旭日中綬章

○從五位勳三等歩兵大佐[illegible]ハ一昨十二日卒去せり

○陸軍士官學校佛語學教師として佛國人ツローを雇入れ去る九日條約を取結びたり

○大阪府虎列剌の景況(内務省報告)　九月二十日伊豫國を出帆したる日本形船一艘同二十七日兵庫に寄港し本月三日大阪府西區土佐堀筑前橋下に停泊中同八日水夫一人虎列剌に罹り河中へ吐瀉せしより該川下流沿岸の地に於て翌九日以來該患者を發生し一昨十二日に至り西成郡三軒屋町に於て頓に六人の患者を發生し追々傳播の景況なり

(以上四件本年十月十四日官報)

## 雜報

○獨逸郵船の企　今回獨逸國にて東洋に郵便船の線路を開く其發船は日耳曼のハンボルフに始まり爪哇に上海に立寄り夫れより浦盬斯德に終るべき定期往來の航海にて日本の長崎等へ寄るや寄らずや未だ詳ならず唯上海と浦盬斯德との途中日本西海の或る島の陸上に石炭の倉庫を設るの便利を得きば至極妙なりとて專ら計畫中なりと云ふ

○貯蓄金と爲替金　先頃來驛遞局にては全國何れの地も俄に貯金の增加して貯金事務れ頗る繁忙なる由ハ據て聞及び居る所なるが之は幾分か先般其筋より頻に貯蓄金の奬勵ありしに由るべしと雖ども到底商賣の不景氣にして政府の外は一般に信憑の地に落ちたるに由るものなりと云ふ然るに此二三箇月以來は貯蓄金ハ漸々に減少して爲替金ハ次第に增加し昨今にては爲替の事務は頗る繁忙なるに至りたりと云ふは多少商賣の回復期に向ひたるにてはあきや抔云ふ人もあり如何にや

○米國綿フランネル　米國製綿フランネル一名アメリカモンパは明治の初め日本へ輸入せしが何分英國製のモンパに押され捌け方よろしからざるより一旦輸入を中止し居り三四年前に至り又々ボツボツ輸入し初めたれども色合が不向きありとて兎角に賣捌けず一反の長さ凡そ五十ヤードより六十ヤード、巾は二十七インチにて目下相場一ヤードに付一分三四厘即ち我十四錢五厘位なるよし其色合は赤、茶、白鼠の無地にて一寸奇麗なる織物なり横濱の日本商一二名は此程百九十番承嶋和、八十九番支那日本貿易商會その他二三の商會へ約定して千反計り買求めたりと云ふ

○岐阜縣の茶況　同縣下一般の本年製茶は珍らしき上出來にして四番迄摘採せし程にて例年の四倍あれども其割合には價格も低落せず且つ此程四日市より四十萬斤の注文ありたるよし

○石腦油發見　京都府下乙訓郡今里村の田中にて今度石腦油の流出せると發見して同府廳へ屆出たるよし

○白墨　宮城縣陸前國加美郡宮崎村には長石膏の存在する由にて過般同村岩淵丈之助、五十嵐某、二瓶某、山田善之助等の諸氏が發起にて右石膏にて白墨製造を試みしに極上の良品を造り出せしかば即ち株金を募り早速其筋の許可を得て既に白墨製造會社なるものを設立し東京より重成某を始めとし外數人の職工を雇ひ入れ盛大に開業せしかば之れが爲め當時の不景氣にて窮迫難澁せし多くの百姓共も採掘運搬等の手間にて生計の助けとあり村内人民ハ皆々喜び居るよし右白墨は價ひ極めて廉直にして品位も上等なれば師範學校の供給に適應せりと

○大藏通信　十月十日大阪發　當區時節部會は來る十二日より開會する由あるが聞く所によればその議案は新に下附するもののみならずし